

26年1月のISM製造業景況指数は 節目の50を11か月ぶりに上回る



米国経済

- 製造業の景況感は足元で改善。26年1月のISM（米供給管理協会）製造業景況指数は52.6と前月の47.9から上昇し、好不調の分かれ目となる50を11か月ぶりに上回った。一方、サービス業の景況感は概ね良好。1月のISM非製造業景況指数は前月と同じ53.8となり、24年10月以来の高水準を維持した。
- 労働市場は弱含みで推移。米民間雇用サービス会社ADPが発表した1月の全米雇用リポートによると、民間雇用者数は前月比2.2万人増と前月（同3.7万人増）から増加幅が縮小した。
- 個人消費は堅調に推移。25年11月の実質個人消費は前月比+0.3%と、6か月連続で増加した。
- FRBは26年1月のFOMCで政策金利の据え置きを決定した。利下げ見送りは4会合ぶり。FOMCの声明文では、景気判断について「経済活動が着実なペースで拡大している」と記載され、前回25年12月の「緩やかなペース」から上方修正された。

本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取り扱いいただきますようお願いいたします。



浜銀総合研究所

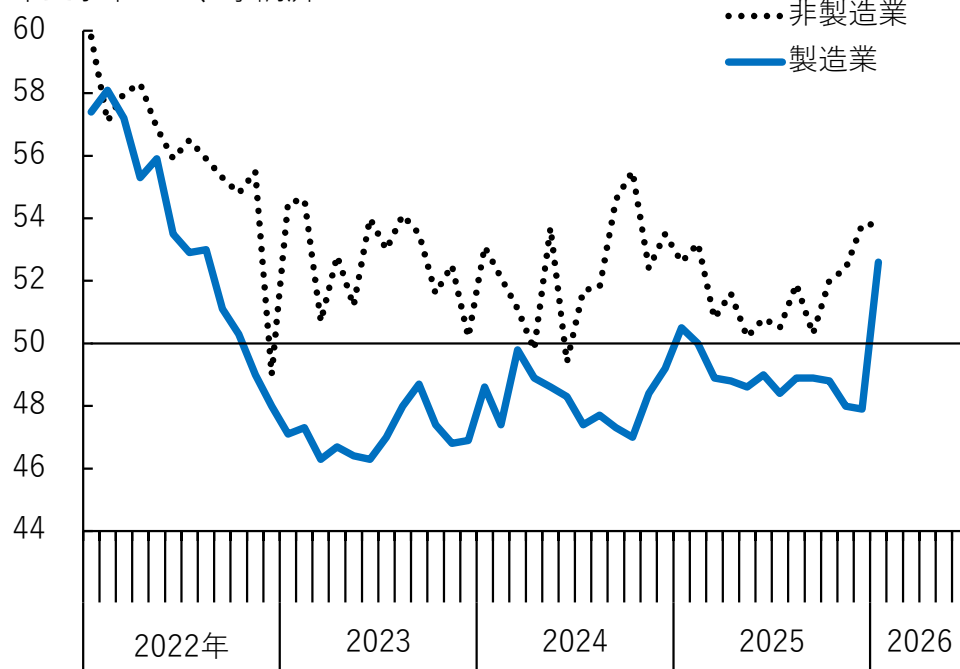
横浜銀行グループ

1月のISM製造業景況指数は
11か月ぶりに節目の50超え

- 製造業の景況感は足元で改善。26年1月のISM（米供給管理協会）製造業景況指数は52.6と前月（47.9）から上昇し、好不調の分かれ目となる50を11か月ぶりに上回った。
 ー 個別の指数をみると、仕入価格が59.0と前月（58.5）から若干上昇。新規受注は57.1と前月（47.4）から大幅に上昇し、節目の50を上回った。雇用も48.1と前月（44.8）から上昇した。
- サービス業の景況感は概ね良好。1月のISM非製造業景況指数は前月と同じ53.8となり、24年10月以来の高水準を維持した。
 ー 個別の指数をみると、仕入価格が66.6と前月（65.1）から上昇した。一方、新規受注は53.1と前月（56.5）から低下。雇用も50.3と前月（51.7）から低下した。

ISM景況指数

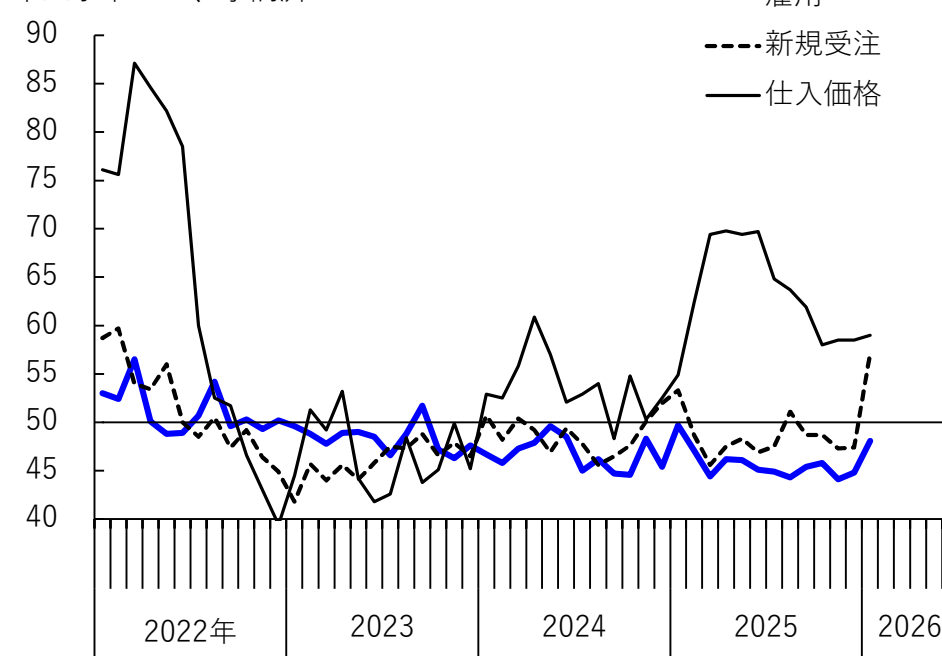
中立水準 = 50、季調済



出所：ISM

ISM製造業景況指数の内訳（主なもの）

中立水準 = 50、季調済



出所：ISM

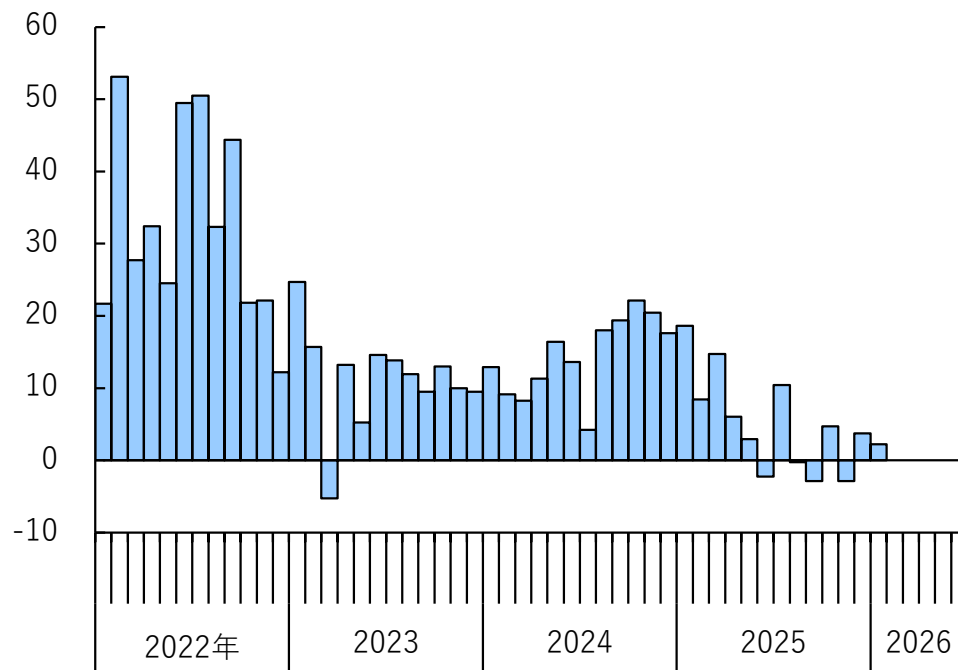
26年1月のADP民間雇用者数は前月比2.2万人増と増勢が鈍化



- 労働市場は弱含みで推移している。米民間雇用サービス会社ADPが発表した26年1月の全米雇用リポートによると、民間雇用者数は前月比2.2万人増となり、前月（同3.7万人増）から増加幅が縮小した。
- 一方、米民間再就職支援会社チャレンジャー・グレイ・アンド・クリスマスによれば、26年1月に発表された人員削減数は前年比+117.8%（10万8,435人）と大幅な増加となった。

ADP民間雇用者数

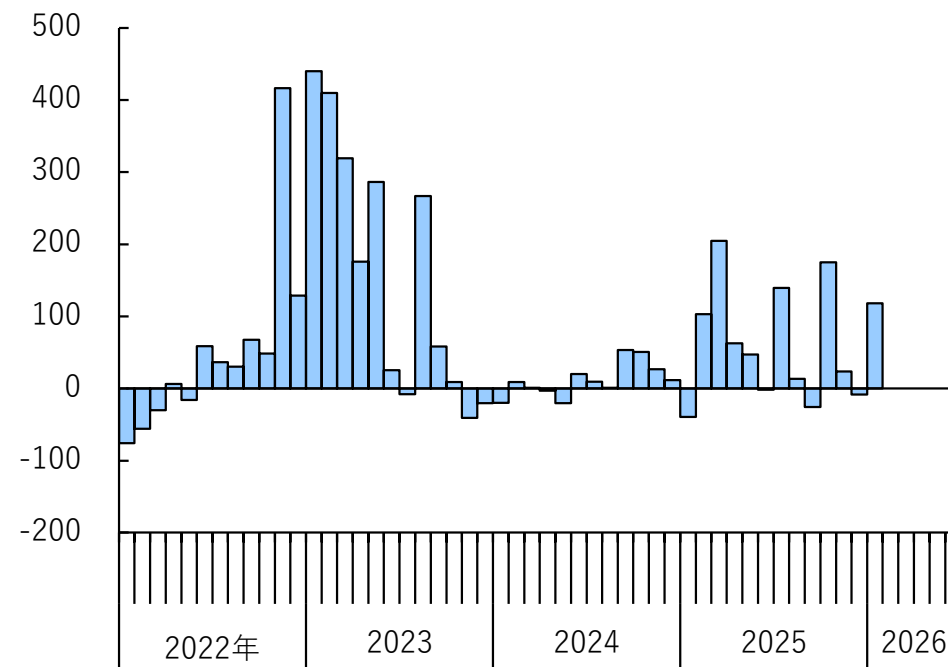
前月差、万人、季調済



出所：ADP全米雇用リポート

人員削減数

前年比、%



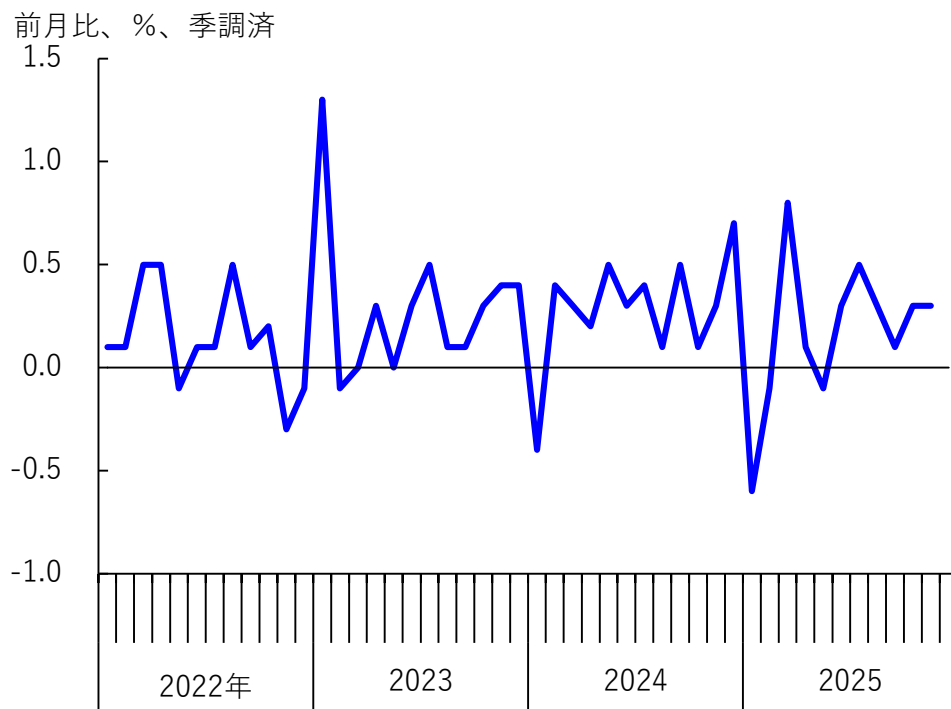
出所：チャレンジャー・グレイ・アンド・クリスマス

25年11月の実質個人消費は6か月連続で増加



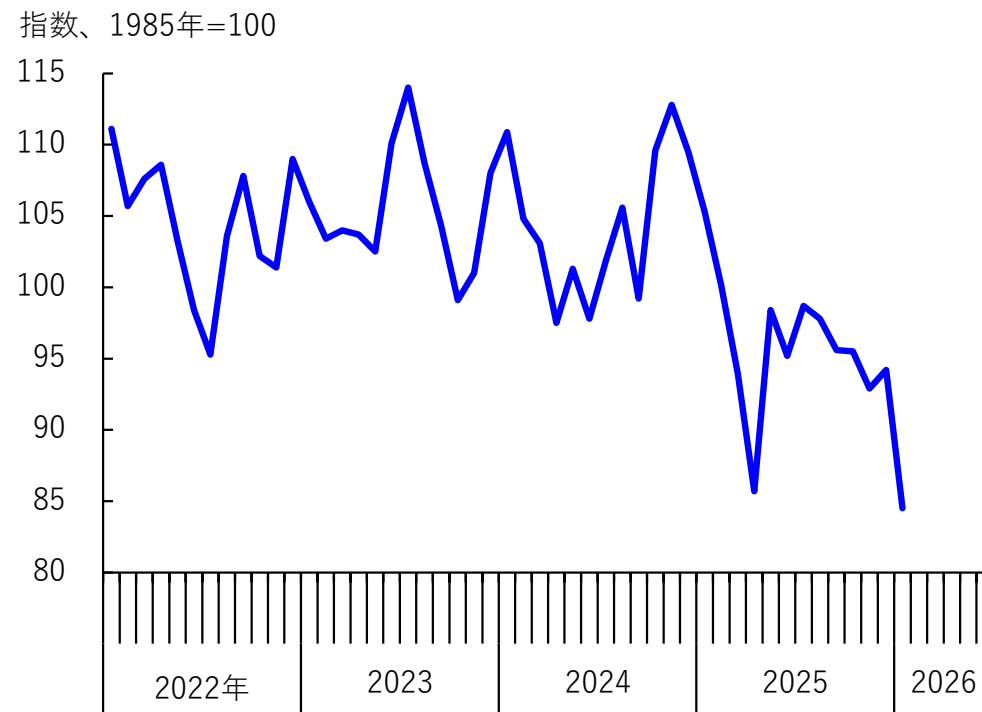
- 個人消費は堅調に推移している。25年11月の実質個人消費は前月比+0.3%と、6か月連続で増加した。
ー内訳をみると、自動車など耐久財の消費が前月比+0.6%と高めの伸びとなった。またサービスの消費は同+0.2%と底堅く推移している。
- 消費者のマインドは悪化傾向にある。26年1月の消費者信頼感指数は84.5と前月の94.2から大幅に低下し、14年5月以来、11年半ぶりの低水準となった。内訳をみると、現況指数が3か月連続で低下した。また、今後6か月の見通しを示す期待指数も大幅な低下に転じた。

実質個人消費



出所：米商務省

消費者信頼感指数



出所：コンファレンスボード

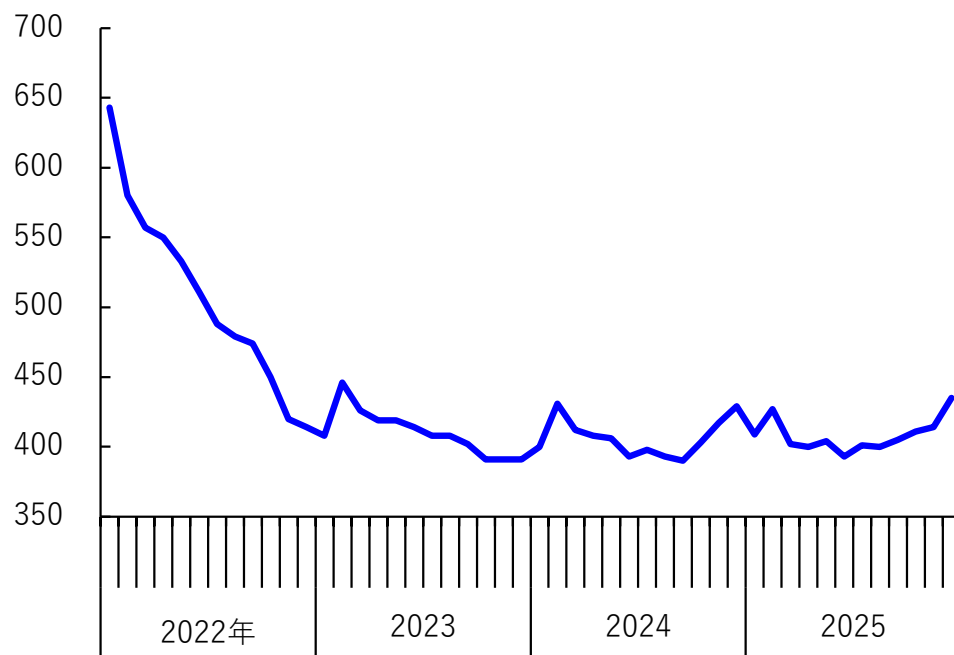
12月の中古住宅販売件数は4か月連続で増加



- 25年12月の中古住宅販売件数（年率換算）は435万戸（前月比+5.1%）と4か月連続で増加し、23年2月以来の高さとなった。住宅ローン金利の低下や住宅価格の上昇ペース鈍化が住宅需要の回復につながったとみられる。
 - －地域別には、北東部（前月比+2.0%）、中西部（同+2.0%）、南部（同+6.9%）、西部（同+6.6%）のいずれもが増加した。
- 一方、12月の中古住宅の販売価格（中央値）は前年比0.4%上昇し、40.54万ドルとなった。

中古住宅販売件数

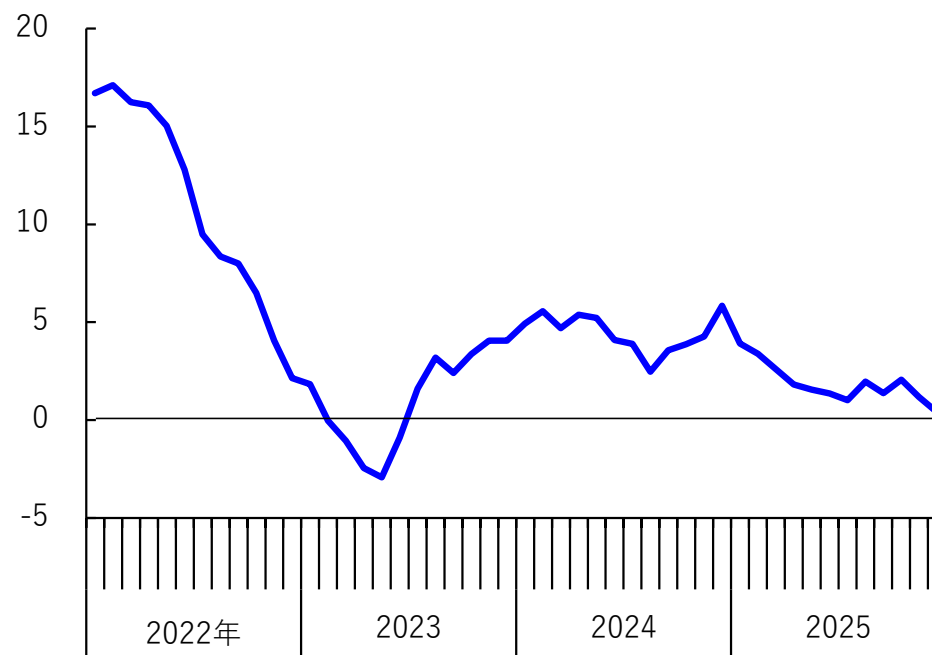
万戸、年率換算、季調済



出所：全米リアルター協会（NAR）

中古住宅販売価格

前年比、%



出所：全米リアルター協会（NAR）

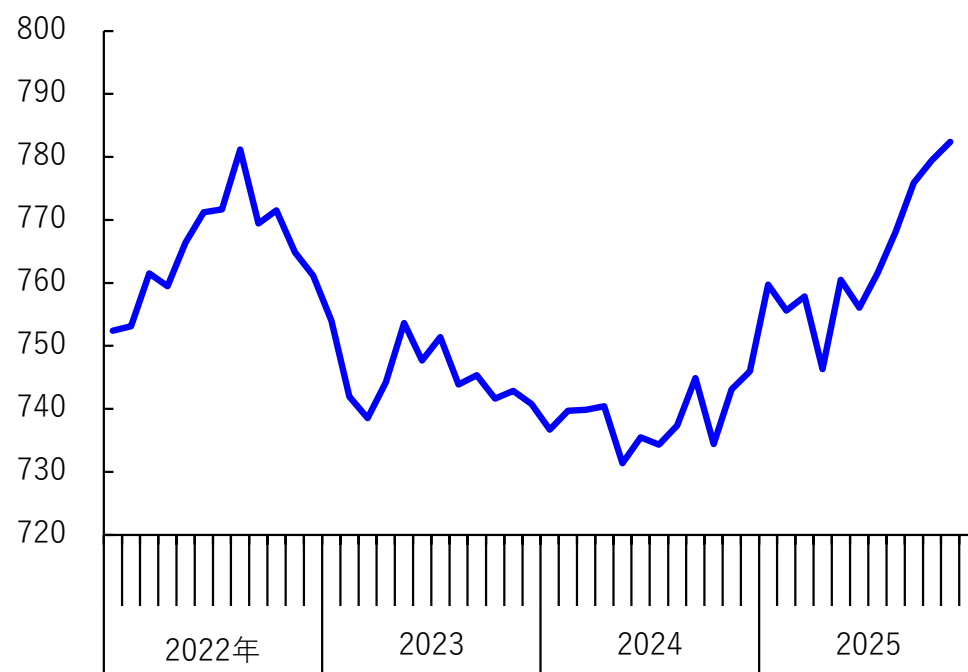
11月のコア資本財受注は5か月連続の増加



- 設備投資の先行指標となるコア資本財受注（航空機を除く非国防）は25年11月に前月比+0.4%と5か月連続で増加した。
- 企業の生産活動は上向いている。12月の鉱工業生産指数は前月比+0.4%と、2か月連続で上昇した。
 ー業種別には、製造業の生産指数が前月比+0.2%と2か月連続で上昇。また電力などの公益事業の生産指数は気温低下による暖房需要の拡大を背景に同+2.6%と大幅に上昇した。

コア資本財受注（航空機を除く非国防）

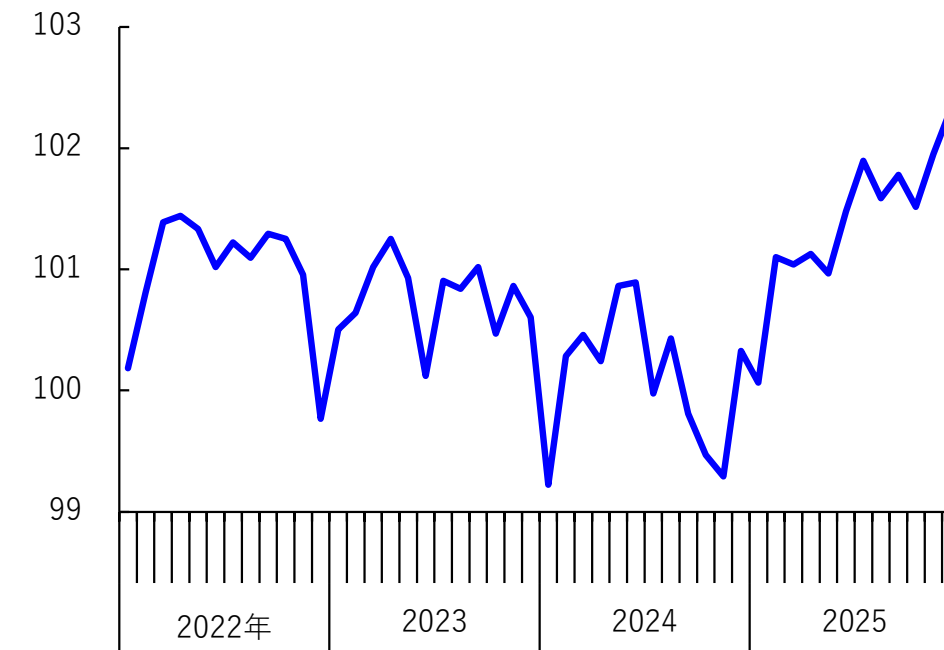
億ドル、季調済



出所：米商務省

鉱工業生産指数

2017年=100、季調済

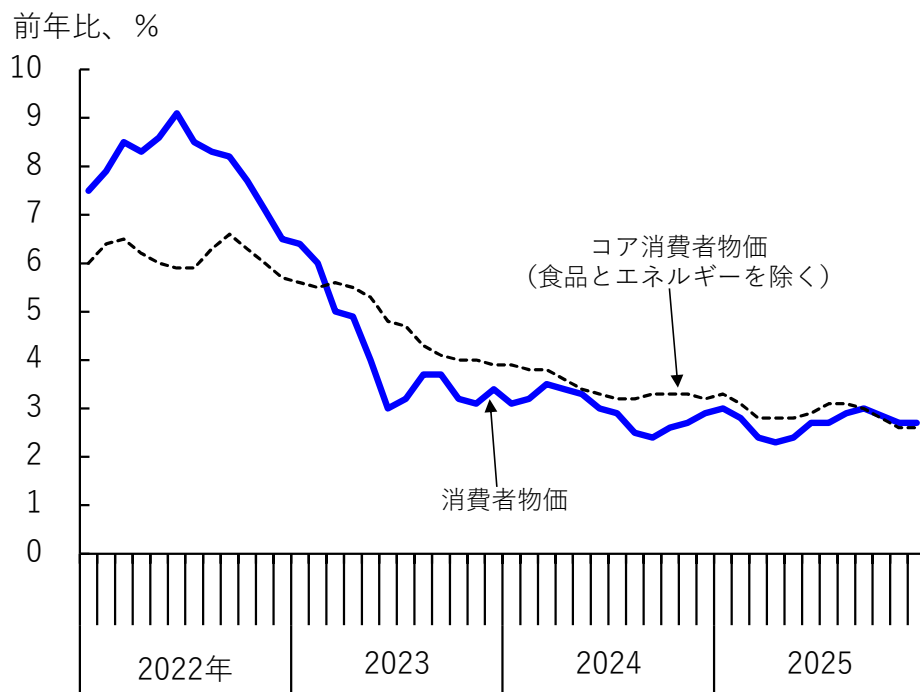


出所：F R B

12月の消費者物価指数は前年比
+2.7%と前月と同じ伸び

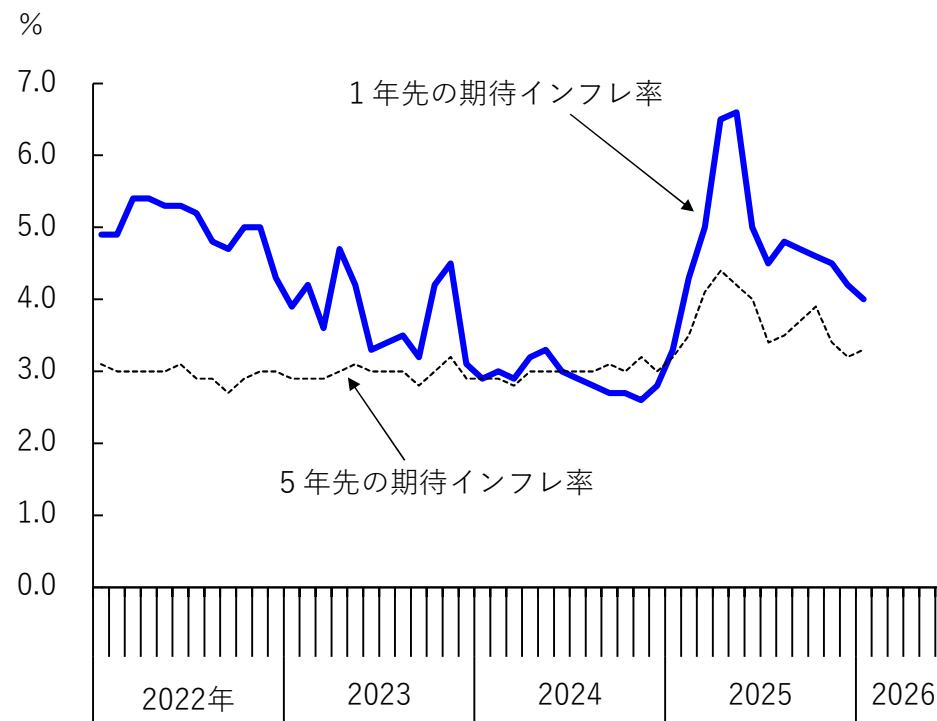
- インフレの加速に一服感が出ている。25年12月の消費者物価指数は前年比+2.7%と、前月と同じ伸びになった。また、食品とエネルギーを除いたコア指数も同+2.6%と、前月と同じ伸びとなった。
- 米シガン大学の発表によると、26年1月時点における消費者の1年先の期待インフレ率は4.0%と前月（4.2%）から低下した。一方、5年先の期待インフレ率は3.3%と前月（3.2%）からやや上昇した。

消費者物価指数



出所：米労働省

期待インフレ率



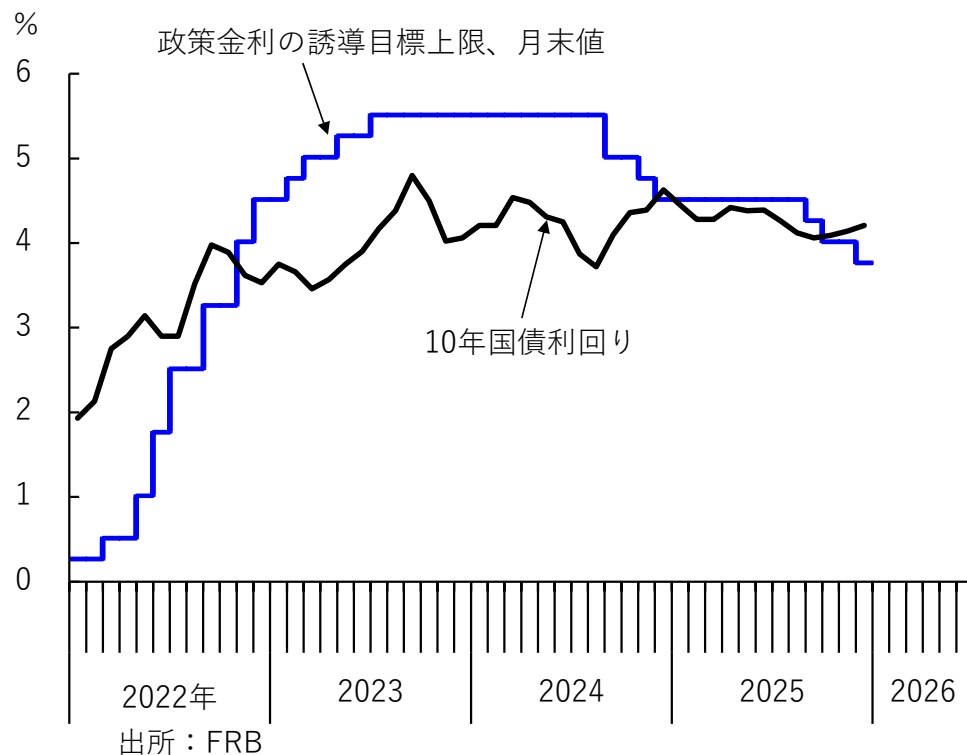
出所：ミシガン大学



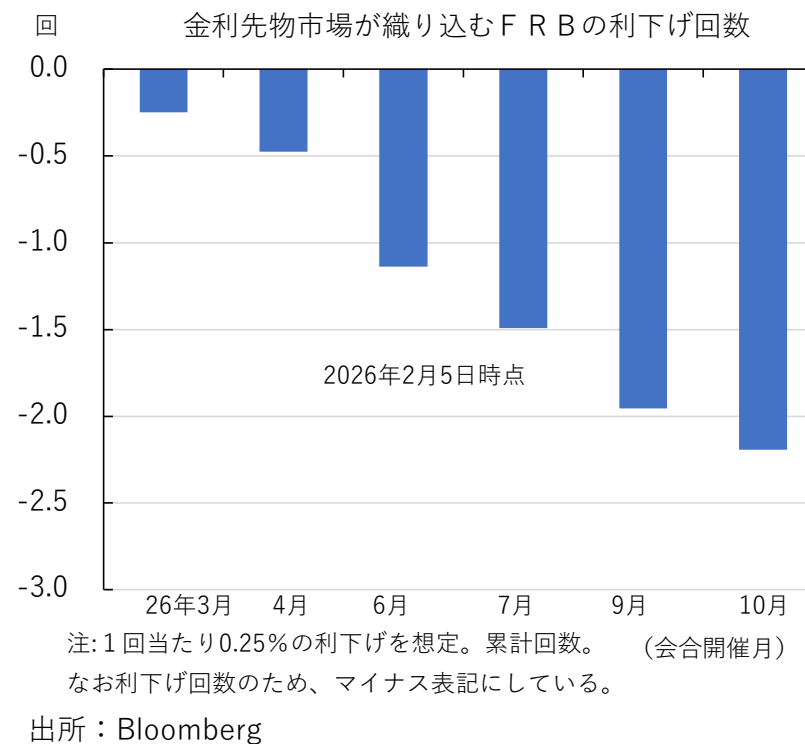
- FRB（米連邦準備理事会）は、26年1月27日～28日に開催したFOMC（公開市場委員会）で、政策金利であるフェデラル・ファンド（FF）金利の誘導目標を3.50～3.75%に据え置くことを決めた。利下げの見送りは4会合ぶり。
- FOMCの声明文では、景気判断について「経済活動が着実なペースで拡大している」と記載され、前回25年12月の「緩やかなペース」から上方修正された。また失業率についても「安定の兆しを示している」と記載されたほか、前回の「雇用に対する下振れリスクがここ数か月間で高まった」との文言が削除され、労働市場に対する見方も上方修正された。

－金利先物市場では、FRBの次の利下げ時期を今年の半ばごろと予想している。

政策金利の誘導目標と長期金利



フェデラル・ファンド（FF）金利の予想





浜銀総合研究所



調査部 特任研究員
北田 英治

浜銀総合研究所では、景気動向に関するレポートなどの発行情報をメールにてお知らせしています。ご関心のある方は、下記のサイトより、「レポート更新情報お知らせメール」（無料）にご登録ください。

【URL】 https://www.yokohama-ri.co.jp/html/inquiry/inquiry_repo.html?nno=5